

第2回「スポーツ社会学基礎“体力”養成フォーラム」報告

日本スポーツ社会学会研究委員会企画 第2回「スポーツ社会学基礎“体力”養成フォーラム」
が下記の要領で開催されました。

日時： 2010年1月16日(土) 14:30-17:30

会場： 関西大学 心斎橋オフィス

報告：

- ・ 院生スピーカー：彦次 佳（神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程後期課程）
「成人・中高年を対象としたスポーツプロモーション研究」
- ・ ゲストスピーカー：尾嶋 史章（同志社大学社会学部教授）
「スポーツの統計的アプローチ」
- ・ コメンテーター：杉本厚夫（京都教育大学）
- ・ 進行：原祐一（岡山大学）



～内容報告～

当日は、センター入試の日と重なってしまったため、10数名の参加者で開催された。しかし、人数が少なかったにも関わらず、内容の深いディスカッションが行われた。

彦次佳さんからは、「成人・中高年を対象としたスポーツプロモーション研究」と題して、成人期以降のスポーツプロモーション研究において、統計的手法を用いた縦断的研究を行うことの意義について報告がなされた。統計的手法を用いた縦断的研究については、まだまだ数が少なくこれから研究していくことの可能性を示された。一方で、縦断的研究を行う際に、コスト面の問題、対象

者の減少や、減少した欠落するサンプルの特性をどのように考え、データを解釈すればよいのかなどが議論された。また、統計的手法を用いる際に使用される自由記述を分析するソフトが開発されつつあるが今後どのように活用していけばよいのか、得られたデータは量的に解釈するのか質的に解釈するのかなどについても議論された。さらに、縦断的研究によって明らかにされる仮説のオリジナリティはどこにあるのかという事についても検討された。

尾嶋史章先生からは、「スポーツの統計的アプローチ」と題して、統計的手法を用いる際の基礎的な解析方法について示していただき、PISAのように既にあるデータを自らの視点で再分析し、新たな知見を導き出す方法について具体的なデータを用いながら話題提供していただいた。特に回帰分析について、①共通要素の抽出（外的基準なし）②関連構造の抽出（外的基準あり）という視点から社会現象の構造的縮約を検討していくことについて詳しくお話をいただいた。また、例として、プロ野球選手の年収データを使用し、スポーツ社会学会においてもすでにあるデータを活用していく可能性を示していただいた。

これらの報告内容を受けてコメンテーターからは、①今後スポーツ社会学会においても様々な統計的手法を用いた研究がおこなわれることを期待したい。②その際に、どのような社会的要因を持ちこんでいくのか、特に若手研究者は社会的理論をしっかり勉強してほしい。③すでにあるスポーツに関するあらゆるデータを使って研究していく可能性がある、というコメントをいただいた。以上のような内容を議論した充実したフォーラムとなった。

